ヒトスデシマカとヤマダシマカの研究(2) 両種 I, II, III 齡幼虫の五対毛 (α , ϵ) の分岐数について: 伊藤壽美代 Itō, S.:

Comparative studies on *Aedes albopictus* (Skuse) and *Aedes flavopictus* Yamada (2)

On the differences between the number of branches of α and ϵ pentad hairs at first-, second- and third-instar larvae

1954年度本会大会において、ヒトスデシマカとヤマダシマカの終令幼虫五対毛 (α , ϵ) 分岐数による両種の鑑別が可能であることを推計学的検定によつて確認し報告したが、それに引続き今回は、I, II, III 令幼虫について同様の吟味を試みた。材料は京都市内産の両種を室内で種別累代飼育した各令幼虫 100 個体宛で、これらの α , ϵ 毛分岐数を検鏡算定し、そのばらつきを調べた。分岐数度数分布の範囲はヒトスデシマカやヤマダシマカの III 令 α 毛では夫々 1~5, 3~9, 同 ϵ 毛では 1~4, 2~10 であり、II 令 α 毛では 1~3, 2~5, 同 ϵ 毛では 1~2, 2~6 であり、I 令は α , ϵ 共にヒトスデシマカは単状毛で、ヤマダシマカは 1~2 岐であつた。従つて各令共、両種に分岐数は重り合い、明確な境界線をひくことは出来ない、次に I, II, III 令の α , ϵ 毛の夫々について χ^2 を計算し両種間の分岐数度数分布の差を検定した結果、I 令幼虫を除き他はすべて高度に有意の差が認められ、II, III 令では両種は明らかに異つた母集団に属する事が判つた。更に夫々について確率紙によつて直線変換を試みた結果、ヒトスデシマカ III 令の ϵ 毛、ヤマダシマカ II 令の α , ϵ 毛以外はいずれも正規型分布とは認めがたく、従つて推計学的処理が出来ないために、それぞれについての厳密な棄却限界の推定は不可能であつた、以上の結果からヒトスデシマカとヤマダシマカの I, II, III 令幼虫は、五対毛 (α , ϵ) 分岐数による鑑別は少数の極端な例を除いては事実上不可能であり、この形質による鑑別法は前報の如く IV 令幼虫の場合にのみ完全な適用が出来ると考えられる。(京都府医・医動物, 京都市衛研)

樹穴から発見された未記録の無斑紋アノフェレスについて: 榊原正純 Sakakibara, M.:

A new unornamented dark anopheline mosquito breeding in tree-hole
昭和31年7月20日静岡県磐田郡水窪町の国有林戸中山の中腹の樺の樹穴から未記録の無斑紋アノフェレスを採集した。成虫は小形で翅に斑紋なく、雄成虫の生殖器の

形態 (classpette の背葉の filament の先端の形態に疑問の点があるが) 等から本種は北米産の *A. barberi* Coquillett, 1903 に近似のものである。幼虫は体長約 5 mm で黒褐色を呈し、頭部の諸毛の特徴は次の様である。即ち内額嘴毛は単条で稍々長く左右接近して生じ、内額嘴毛間の距離は一側の内外額嘴毛間の距離より狭い。外額嘴毛は基部 $\frac{1}{2}$ 近くより普通 2 岐し、時に単条又は 3 岐する。後額嘴毛は単条で外額嘴毛の稍々外方可成り後方に位置し、それより短い。前頭毛は何れも単条で、内前頭毛は外額嘴毛とほぼ同長、中前頭毛は内前頭毛より極めて短くその $\frac{1}{2}$ 位、外前頭毛は内前頭毛より稍々短い。これに対し、*A. barberi* の幼虫の頭部の毛は次の様である。内額嘴毛は単条であるが顕著に相隔つて位置し、内額嘴毛間の距離は一側の内外額嘴毛間の距離より著しく広い。外額嘴毛は普通単条で時に 2 岐する、後額嘴毛は単条又は 2 岐し外額嘴毛より長く、これより著しく外方に位置しあまり後方でない、前頭毛は共に単条、内前頭毛は後額嘴毛と略々同長、中前頭毛は内前頭毛より少しく短かい。外前頭毛は内前頭毛と略々同長である。その他第 8 腹節の pecten の刺状突起が本種では 18~19 本で、その長さが略々同長であるが、*A. barberi* では 12 本で、両側のもの程短くなつてゐる。以上の様に本種の内額嘴毛が正中に極めて接近して位置し、外額嘴毛もすぐその外方に寄つて来ているが、尚且つ内額嘴毛間の距離は一側の内外額嘴毛間の距離よりも狭い点、外額嘴毛が稍々長く普通には 2 岐する点、後額嘴毛が稍々短く後方に位置する点、中前頭毛が稍々短かく内前頭毛の約 $\frac{1}{2}$ である点、及び pecten の刺状突起の数が多く、長さが略々一樣である点等に於て近似種 *A. barberi* とは異なる種類であると考えこれをオオモリアノフェレスと命名したい。本種は樹穴で発生し、冬期は幼虫で越冬するものようである。成虫はアノフェレス型の静止をする。(久根鉦山診療所)

長崎産 *Culex pipiens molestus* について (第 IV 報): 嘉村猛 Kamura, T.:

On the *Culex pipiens molestus* IV
著者はこれ迄長崎産 *molestus* について生態形態学的研究の一部を報告して来たが、今回は長崎産 *molestus* と諫早産 *pallens* の交配実験及び♀の外部生殖器の形態について報告する。交配実験には何れも同一環境下で累代飼育中の 8 代目のものを用いた。実験には 25°C, 湿度 70~80%, 20W 蛍光灯の温度で 50 個体の♀と他種の♂ 100 個体とを夫々 30 cm³ の籠内で同棲させて行い、4 回